

悠然たる静かな強さをたたえた「真の巨匠」

米寿記念演奏会 出雲公演

館野 泉

令和6年3月3日(日)

開演/14:00(開場13:15)

ビッグハート出雲 白のホール

〈税込・全席指定〉5,000円※就学前のお子様の入場はできません

プレイガイド/12月16日(土)チケット発売開始!

ビッグハート出雲、出雲市民会館、

平田文化館、大社文化プレイスうらら館、

ローソンチケット(Lコード:63116)

■お問合せ/(公財)出雲市芸術文化振興財団

TEL0853-21-7580

(土・日・祝日・毎月最終月曜を除く9:00~17:00)

■主 催/公益財団法人出雲市芸術文化振興財団、出雲市、出雲市教育委員会

■協 力/特定非営利活動法人 出雲フィンランド協会

曲 目

♪梶谷 修:風に…波に…鳥に…

♪ノルドグレン:振袖火事
(「小泉八雲の『怪談』によるバラードII」より) 他

♪平野一郎:鬼の学校

左手のピアノと弦楽の為の教育的五重奏

基礎科目、教養科目、実践科目、生存科目、運動、
給食、転寝、掃除、放課後の鬼生訓 etc

酒吞童子先生の教えを受ける鬼の生徒たち

ヤンネ館野(ヴァイオリン)

安達 真理(ヴィオラ)

矢口里菜子(チェロ)

長谷川順子(コントラバス)

平野一郎(作曲)によるプレトークも予定しています
※都合により、曲目等の内容の一部が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

『鬼の学校』はシューベルトの『鱒』と同じ編成で、
ピアノを弾く酒吞童子が若い眷属を集めて、鬼が鬼らしく純粋に生きていくために必要なことを囁んで
含んで言い聞かせる趣向。老いた酒吞童子と若い仲間達が繰り広げる音楽を通しての命の会話に耳を傾けて頂きたい。(館野泉)

館野 泉(ピアノ)

クラシック界のレジェンド。2024年に満88歳を迎える。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ不動の地位を築く。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。「館野泉の左手のために」、10ヶ国の作曲家により100を超える作品が献呈される。

館野 泉公式HP <https://www.izumi-tateno.com/>



ヤンネ 館野 (ヴァイオリン)

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。シルッカ・クーラ、オルガ・バルホメンコ、森悠子の各氏に師事。2011年、2022年東京文化会館にてリサイタルを行う。ソリストとして2015年ヘルシンキにてW.ケンプのヴァイオリンコンチェルトを演奏。またモーツァルトコンチェルト、シベリウスコンチェルトを山形交響楽団と共演。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活動する。バロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏、コンサートのプロデュースをするなど幅広い活動を展開。

HP <https://jannetateno.com/>



安達 真理 (ヴァイオリン)

日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン客演首席奏者。精力的にヴァイオリン・リサイタルを開催するなど、ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活動している。録音作品では『Winterreise』『J.S.バッハ 組曲&パルティータ』『MY DEAR』をリリースしている。これまでに、インスブルック交響楽団にて副首席奏者を努め、パーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団にも参加している。



矢口 里菜子 (チェロ)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、ドレスデン音楽大学にて研鑽を積む。第10回ピバホールチェロコンクール第1位。第31回霧島国際音楽祭賞。ソリストとしてザクセン州立警察オーケストラなどと共演。現在山形交響楽団首席チェロ奏者。異なる楽団のトッププレイヤーから成る弦楽四重奏団「The 4 Players Tokyo」として、BSテレビ東京「エンター・ザ・ミュージック」に定期的に出演している。



長谷川 順子 (コントラバス)

相愛大学卒業。同研究科修了。アメリカルーズヴェルト大学シカゴ芸術学院に留学。フィンランドのラ・テンペスタ室内管弦楽団のメンバーとして、2005年、2007年オウルンサロ音楽祭、2005年日本ツアーに参加。長岡京室内アンサンブル、関西室内楽協会大阪チェンバーオーケストラ、いずみシンフォニエッタ大阪、神戸市室内管弦楽団、他、オーケストラリベラクラシカ、バッハ・コレギウム・ジャパンに参加。また、古楽から現代音楽、タンゴなど様々な活動を広げている。



平野 一郎 (作曲家)

2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源を探ね、身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本財団特別奨励賞、青山音楽賞、京都市芸術新人賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞奨励賞等受賞。ISCM2008入選。四季の四部作(吉川真澄)ピアノソナタ(光人彷徨)(イリーナ・メジャーエワ)鱗宮交響曲(芦屋交響楽団)八幡大縁起(やわた市民音楽祭)胡絃乱聲(国立劇場)とこよのはる(森の会)連作交響神楽(出雲の春音楽祭)オペラ(あの町は今日もお祭り)(国立市)等委嘱作多数。館野泉左手の文庫委嘱作品として:精霊の海(2011)微笑ノ樹(2012)二重協奏曲(星巡ノ夜)(2014)鬼の生活(2021)鬼の学校(2022)を手掛ける。NHK-BS8K《落慶~奈良・興福寺~》音楽制作。

©MakiTakagi

出雲芸術アカデミー・コンポーザー
インレジデンスを務め、出雲の
神話・祭礼・伝承に基づく連作
交響神楽を展開する作曲家・
平野一郎が鬼気迫る鬼の思想と
たっぷりのユーモアで綴る
「鬼の学校」出雲校、ついに開校!